

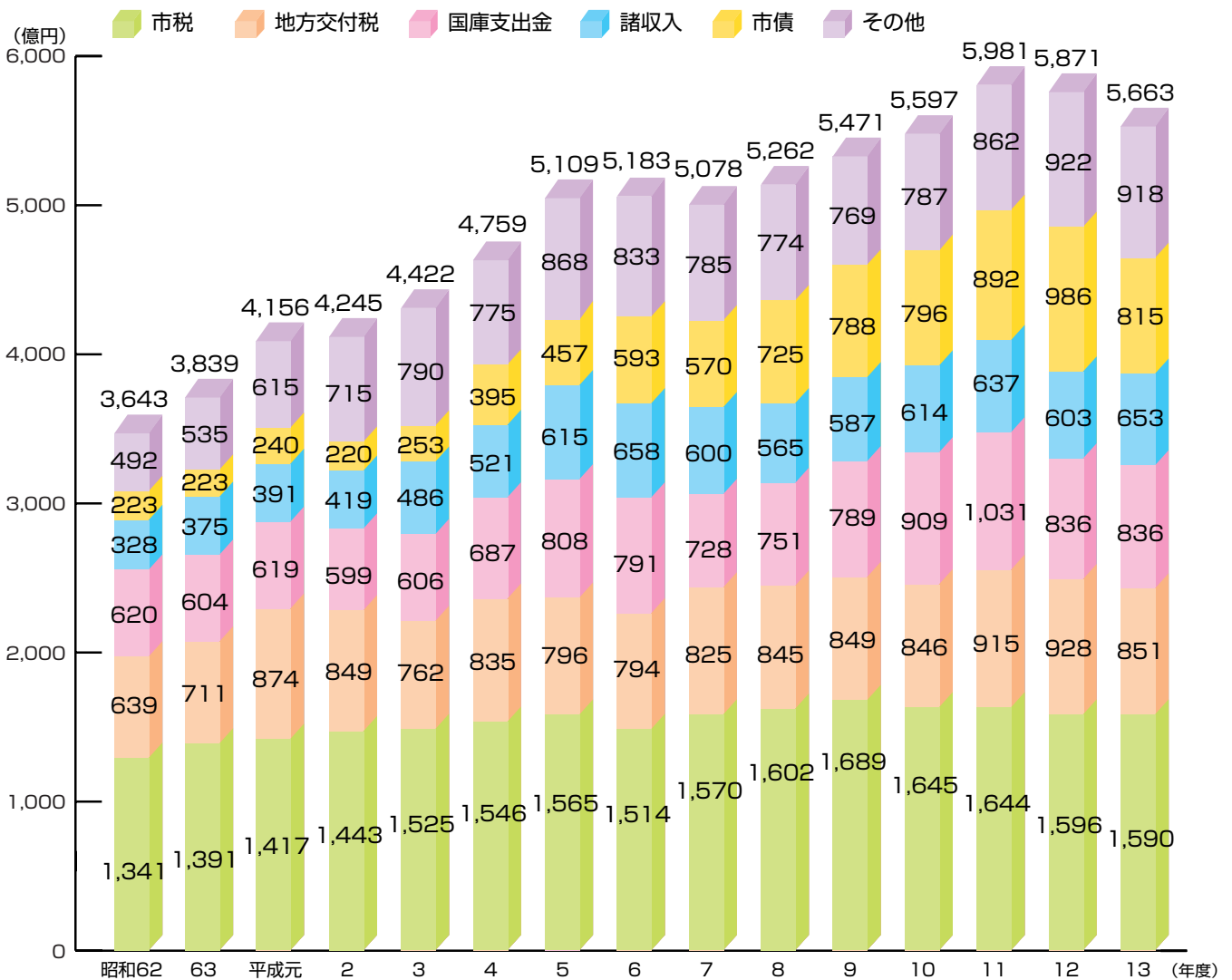
③北九州市決算の状況

1. 一般会計決算

(1) 歳入決算

歳入総額は、平成11年度をピークに減少しており、歳入の根幹となる市税についても、長引く景気の低迷などにより4年連続の減少となっています。市債収入については、増加傾向にありましたが、平成13年度では、大規模施設の整備費が減少したことなどにより、平成7年度以来6年ぶりに前年度を下回りました。また、地方交付税については、平成13年度から交付額の一部が市債（臨時財政対策債）に振り替えられたことにより、前年度より減少しています。

■一般会計歳入決算額の推移



自主財源比率	54.6	55.2	52.6	54.2	57.1	54.0	54.2	52.1	51.9	50.2	50.4	48.0	46.1	45.7	48.2
依存財源比率	45.4	44.8	47.4	45.8	42.9	46.0	45.8	47.9	48.1	49.8	49.6	52.0	53.9	54.3	51.8

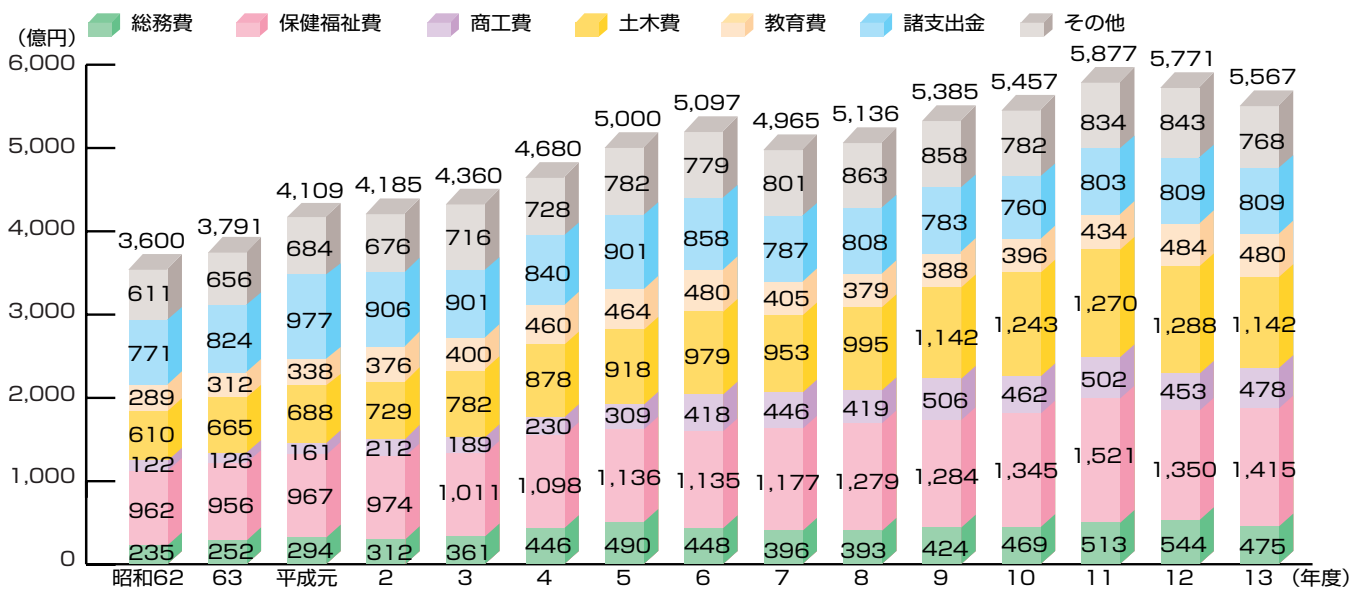
(2)歳出決算

本市では、北九州市ルネッサンス構想の実現へ向け着実に施策を実施してきました。その結果、歳出総額は、ルネッサンス構想策定以前の昭和62年度と平成13年度を比較すると約1.5倍に増加しています。

平成13年度決算を目的別に分類すると、保健福祉費、商工費、土木費、教育費等が大きな割合を占めています。また、昭和62年度からの増加率では、商工費が3.9倍と最も大きな伸びを示す一方、保健福祉費は高齢者福祉費等の一部が平成12年度に設置された介護保険特別会計へ移行したことなどにより1.5倍の伸びにとどまっています。

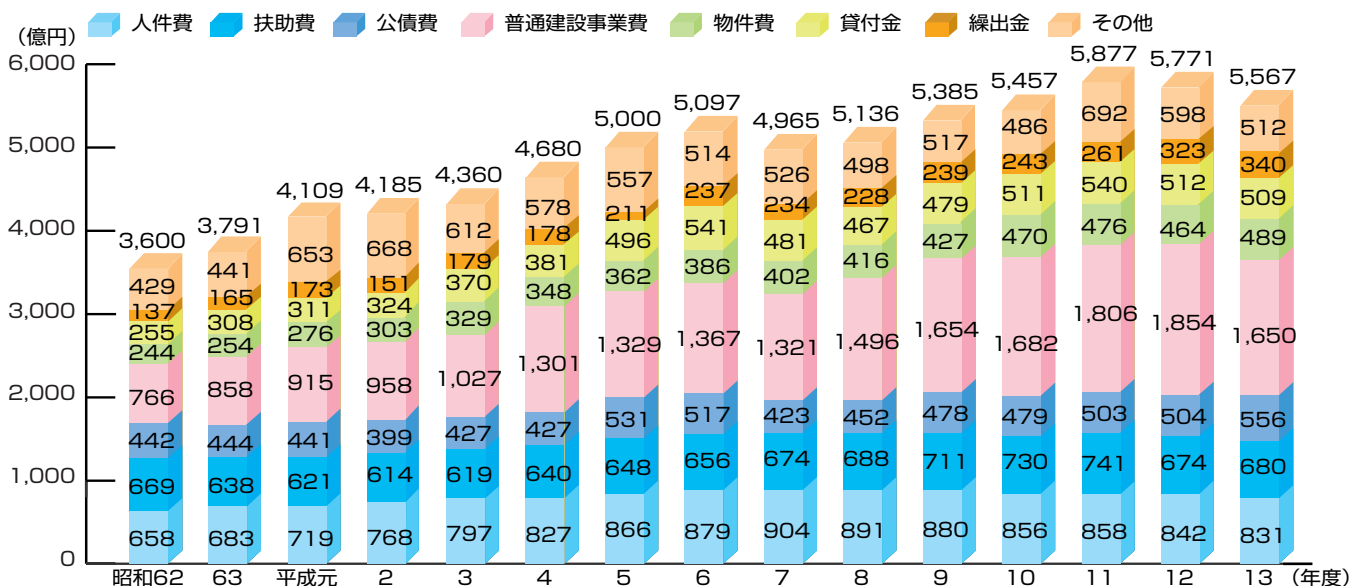
次に、性質別の分類では、行革の効果に伴う人件費の減少などにより、平成8年度以降、義務的経費比率は30%台と良好な値を維持しています。また、普通建設事業費については、自然史・歴史博物館などの大規模施設の整備や国の経済対策への対応などにより増加傾向にありましたが、平成12年度で大規模施設の整備が一段落したことなどにより平成13年度では大幅に減少しています。

■一般会計目的別歳出決算額の推移



58頁参照

■一般会計性質別歳出決算額の推移



	昭和62	63	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
義務的経費比率	49.2	46.5	43.3	42.5	42.3	40.5	40.9	40.3	40.3	39.5	38.4	37.8	35.7	35.0	37.1
投資的経費比率	22.5	23.6	23.0	23.5	24.1	28.2	26.8	27.0	26.9	29.3	30.8	30.9	31.0	32.4	29.7

59頁参照

2. 企業会計決算

公営企業会計は、企業的な性格をもつもので、料金収入などにより経営を行い、独立採算で運営することとされています。北九州市では、上水道事業や病院事業など、5つの会計があります。

56頁参照

■平成13年度決算

(消費税込、単位：百万円)

区 分	収益的収支			資本的収支		
	収入	支出	差引	収入	支出	差引
上水道事業	19,945	20,430	△ 485	5,110	11,525	△ 6,415
工業用水道事業	2,290	2,068	222	2,151	3,518	△ 1,367
交通事業	3,040	2,998	42	463	666	△ 203
病院事業	25,592	27,579	△ 1,987	3,125	3,583	△ 458
下水道事業	29,469	27,446	2,023	17,170	28,054	△ 10,884
計	80,336	80,521	△ 185	28,019	47,346	△ 19,327

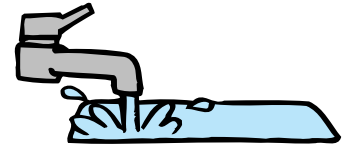
(1)上水道事業会計

平成13年度は、長期的な安全・安定給水の確保と市民サービスの向上を図るため、北九州市水道施設整備長期構想に基づき、東西連絡管整備事業や高度浄水施設整備事業等を実施するとともに、老朽化した導・送・配水管の布設替を重点施策に位置付け、積極的な取り組みを行いました。

財政面では、景気低迷の影響などにより大口使用者を中心に水需要が減少し、料金収入が減収傾向にあることなどから、長期的な展望に立った健全な財政基盤の確立が不可欠であるため、平成17年度までの財政計画に基づき、平成13年9月から、料金及び手数料等の改定を実施しました。

(消費税込、単位：百万円)

区 分	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
総 収 益	19,864	19,454	19,142	19,298	19,945
総 費 用	18,682	18,915	18,833	20,961	20,430
当 期 損 益	1,182	539	309	△ 1,663	△ 485
累 積 資 金 剰 余	2,754	2,128	1,070	△ 24	337



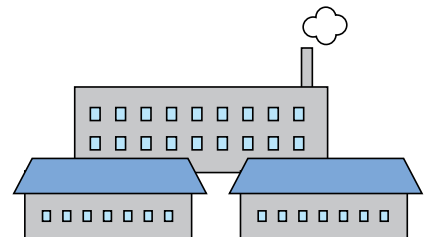
(2)工業用水道事業会計

工業用水道事業については、社会・経済情勢の変化に伴い企業の新規立地が計画どおり実現しなかったことや、企業の水使用の合理化等により、多くの未売水をかかえ、厳しい経営状況が続いてきました。

平成13年度決算では、新規需要の開拓や経費の節減を図ったことにより、約3億円の累積資金剰余となり、昨年度に続き安定経営を維持しています。

(消費税込、単位：百万円)

区 分	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
総 収 益	2,365	2,372	2,375	2,321	2,290
総 費 用	2,207	2,190	2,099	2,337	2,068
当 期 損 益	158	182	276	△ 16	222
累 積 資 金 剰 余	271	392	636	820	295



(3)交通事業会計

本市では、交通事業会計によりバス事業の経営を行っています。バス事業については、マイカーの普及、週休二日制の普及、学生数の減少及び景気の長期低迷などにより、年々乗客数が減少する厳しい経営環境が続いています。

こうした中で、公共輸送機関としての使命を果たすため、地域住民の足として安全を第一に、良質で安定したサービスを提供しながら経営の健全化を目指して努力しています。

(消費税込、単位：百万円)

区 分	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
総 収 益	3,139	3,001	2,942	3,046	3,040
総 費 用	3,107	2,889	2,793	2,897	2,998
当 期 損 益	32	112	149	149	42
累 積 資 金 剰 余	697	843	1,089	1,323	1,494



(4)病院事業会計

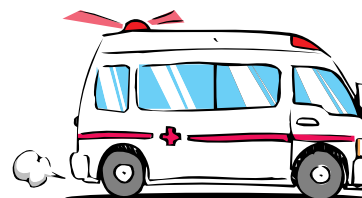
本市の病院事業では、医療センターをはじめ5つの病院を経営してきました。

国において医療費抑制政策が継続・強化される中で、患者数が減少し、料金収入が伸び悩むなど病院事業の経営は厳しい状況となっています。こうした厳しい経営環境の中、経営を健全化し、安定した経営基盤を確立するため、多額の赤字を抱えた戸畑病院を平成13年度末に廃止し、4病院体制とするなど市立病院の再編成に取り組んでいます。

また、高度・多様化する市民の医療ニーズに迅速かつ的確に対応するため、医療機器整備や施設の改善等の病院機能の充実を図り、医療サービスの向上に努めています。

(消費税込、単位：百万円)

区 分	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
総 収 益	27,414	27,462	27,724	24,629	25,592
総 費 用	29,119	29,253	29,423	26,212	27,579
当 期 損 益	△ 1,705	△ 1,791	△ 1,699	△ 1,583	△ 1,987
累 積 資 金 剰 余	2,760	1,932	1,125	852	△ 50



(5)下水道事業会計

下水道は、快適で安全な生活環境を確保するなど都市の基幹施設として不可欠なものであり、本市では昭和40年代から本格的普及対策に取り組んできました。現在では、市街化区域の整備はほぼ完了しています。また、浸水対策として、雨水排水施設の整備を図るとともに、合流式下水道の改善等についても計画的に実施しています。

財政面では、健全な財政基盤の確立へ向け、より効果的な投資や採算性を踏まえた経費の執行など計画的な財政運営に努めています。

(消費税込、単位：百万円)

区 分	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
総 収 益	30,890	30,363	29,843	30,626	29,469
総 費 用	27,091	27,561	26,791	26,902	27,446
当 期 損 益	3,799	2,802	3,052	3,724	2,023
累 積 資 金 剰 余	1,633	924	626	3,238	4,664

